

## C-15 成人女子の体型の個人追跡的研究

横浜国大教育 ○増田順子・お茶の水女大家政 柳沢澄子

目的：従来、成長に関する個体の追跡的研究は行なわれているが、衣服設計の立場から行なった成人女子を対象としたものはみあたらない。横断的資料によれば、身長等長径項目は、女子では17才を頂点として年齢とともに減少傾向を、胸囲等周径項目は増加傾向を示すが、これらの体型の変化には、その時代の体型の特徴が或程度介入していると思われる。そこで、同一個体が加齢に伴い、どのような形態的变化をきたすかを検討するため、個体の追跡調査を行なった。

方法：資料は、お茶の水女子大学被服構成学研究室所蔵の昭和26年・28年および39年に計測された90名の計測原票、ならびに、同一個体について、昭和48年に追跡調査を行なった計測値である。即ち、約20年を隔った場合（A群）、約10年を隔った場合（B群）の体型の変化について観察を試みた。計測項目は、長径7項目、幅径7項目、周径10項目ならびに体重の計25項目である。

結果：主な結果は次のようである。

- 1) 横断的処理をした場合、A群・B群とも周径・横径・矢状径の変異係数は、前回より今回の方が著るしく大きく、年齢とともに個人差が大きくなることが知られる。また、周径項目における前回成績と今回成績との相関はほとんどみられない。
- 2) 10年後又は20年後における個体の各項目の増減の幅は、長径項目は小であるが、周径項目・幅径項目は極めて大きい。特に、胸囲・上腕最大囲・胴部矢状径・腰部矢状径・体重では、その傾向が顕著である。